

令和 6 年度 加東市立学校手話取組

学校教育課

1 経緯

- ・平成 26 年 11 月 加東市で手話言語条例
- ・それまでから総合的な学習の時間の中で福祉学習の一環として、バリアフリーの学習、目の見えにくい人のための社会の工夫等を学習していた。
- ・市社会福祉課や社会福祉協議会と連携して、ゲストティーチャーとして当事者の方との交流、市の職員の方からお話を聞く学習を行ってきた。
- ・他にも、大型施設や街を歩いて、点字ブロックや音の出る信号機などの工夫を見て、障害のある人の理解、共に暮らしていくために、どのようなことを考えれば良いか等を学んできた。
- ・手話言語条例が制定され、総合的な学習の時間の福祉学習の中で手話を扱う学習が増えた。
- ・加東市手話言語強化週間では、教育委員会から手話動画の紹介をした。11 月 27 日を含めた 1 週間、あいさつ等に取り入れた学校もあった。
- ・各学校で福祉学習の内容を独自に考えて扱う中で、手話を学ぶ機会を充実させたいという声があり、方法を模索していたところ、社会福祉課より「レッツ手話 for キッズ」の紹介を受けた。
 - ・令和 2 年（2021）年度 2 月に、「社会福祉法人全国手話研修センター」から、令和 3 年度 web 教材を活用した手話学習モデル事業「レッツ手話 for キッズ」の紹介を受け、希望校を募ったところ、市内 5 つの小学校の希望があり、実践した。
- ・「レッツ手話 for キッズ」の良い所は、Web 教材なので、手話の動きが動画で確認できることや、教材の作成や準備する時間が短縮できること、一人 1 台タブレットを使って個人で動画が見れること等がある。また、「レッツ手話 for キッズ」の中の手話検定もあるので、学習の効果を確認することもできる。
- ・今後も福祉学習の一つとして「レッツ手話 for キッズ」を取り入れて、今後も手話に慣れ親しむ活動を継続する。

2 令和 6 年度の取組（一例）

- ・令和 6 年度、「レッツ手話 for キッズ」55,000 円を当初予算に計上した。
- ・「レッツ手話 for キッズ」を希望した 6 校、小学 3 年または 4 年生の約 300 名が学習した。
- ・次年度に「レッツ手話 for キッズ」の活用を希望する学校を募り、今後も手話に慣れ親しむ活動を継続する。